

1-6		様式2	
主題	排泄ケアをトータルサポートする！！		
副題	コンチネンスケアへの取り組みで生活の自立を支援する		
失禁、便失禁の低減		施設全体で行う排泄ケア	
研究期間	3年	事業所	富士見台特別養護老人ホーム
発表者：梶原 寿広		アドバイザー：	
共同研究者：都筑まさみ、古澤千恵			
電 話	03（5241）6010	メール	fujimi-tokuyoh@nerima-swf.jp
FAX	03（5241）1760	URL	

今回発表の事業所やサービスの紹介	緑の多い閑静な住宅街に位置し、施設内には地域包括支援センター支所、デイサービスセンター、居宅介護支援事業を併設した56床（SS含む）の施設です。近隣は練馬区内でも高齢化率の高い地域となっています。施設内事業所すべてが連携、協働して認知症になっても安心して暮らせる地域の核になれるよう、高齢者支援に取り組んでいます。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》 当施設では平成16年から尊厳を尊重した個別排泄ケアを目指し、排泄委員会を中心に取り組み、ケアの統一ができていました。 《課題》 お客様の失禁タイプを個別担当者がアセスメントし、把握した結果でどのような排泄ケアを行なっていくかを自身で考え、ケアマネジャーと協働してケアプランに入れていく事で、コンチネンスケアの意義と醍醐味を知ってほしかった。 お客様の排泄ケアへの取り組みへの理解が乏しい職員がいる為、委員会として、排泄に関わる全ての職員に根拠が見える排泄ケアの実現を行いたかった。	《2. 研究の目標と期待する成果・目的》 《目標》 排泄ケアのトータルサポートを全職員が理解、実践しお客様に対して、自立した生活、本人本位の生活を支援する。 《期待する成果》 これまでの排泄ケアは、トイレでの排泄を維持するための移乗やアイテムの選定を中心にした個別ケアと、利用者毎に合わせた時間での誘導をしていたが、排泄ケア時間をより個々に合わせた時間とすることで、失禁・おむつ内排便をなくし、トイレでの排泄が出来る。それにより排泄コストの低減、下剤を使わない排便サポートをする。 利用者の状況に合わせた排泄環境づくりをする。 職員は排泄ケアへの根拠を理解し、新しい取り組みを推進する。
--	--

《3. 具体的な取り組みの内容》

全お客様の本人本位のケアに向け全職員 を対象とした取り組み

- 1、施設ケアマネジャーと連携し、ケアプランに排泄に関するプランをする。
全職員が統一した排泄ケアを行なう。
- 2、排尿チャートの実施で失禁を低減させ
本人の排尿間隔でトイレ誘導をする。
- 3、排便サポートを実施し、便秘気味のお客様にファイバーの活用、朝の冷水提供で
下剤の低減、おむつ内での排便からトイレでの排便へ移行する。
- 4、排泄アイテムの適正化する。本人の尿量
や体型に合った排泄アイテムの使用で
不快感を低減させる。排泄アイテムの2
枚使いをしないことで圧の低減をする。
- 5、ご本人に合った排泄アイテムメーカー
を選定し皮膚トラブルの予防をする。
- 6、トイレ環境の整備を行い、排泄しやすい
姿勢作りをする。
- 7、失禁予防体操で排泄機能の維持・向上と
意識の啓発をする。

従前のケアを継続しながら、1年目は上記1～7の基盤を構築した。2年目は委員会を中心にしたコンチネンスケアを実践し、3年目は個別担当者のアセスメント力の向上とコンチネンスの意義と醍醐味を知ることになった。

〔他職種連携〕

排泄は他の職種や委員会にも大きく関係する為、管理栄養士、機能訓練指導員、排泄アイテムメーカーのアドバイザーと協力した。

〔環境の整備〕

パナソニック製補高便座 8,000 円、トイレ手すり（背もたれ・前傾用手すり付）10 万円、冬用温風ヒーター1,000 円を購入した。足台は手作りした。

取り組みによる効果

全ての利用者の排泄に関するアセスメント結果をケアプランお実践に活かすことができた。また、職員の排泄ケアへの理解と実践に根拠ができた。以下のような効果もあった

下剤使用率3割減。

排尿失禁約2割減。

トイレ内での排便の増加。

皮膚トラブル減少。

コスト削減。

（1人あたり年間 45,000 円）

当法人内の他施設に比べ 1～2 万ほど低い
（2010 年、2011 年、2012 年の 3 月比）

《5. まとめ》

排泄ケアは 24 時間 365 日続くと同時に季節単位、体調によっては 1 日単位で変化のあるケアであり、生活の中でとても比重の高いケアです。排泄ケアから生活が変わるといっても過言ではありません。

取り組みにはお金、時間、職員教育など色々と費やすものもありますが、極めれば極めるほどに、実践した事によるメリットは絶大です。

《8. 提案と発信》

コンチネンスケアは日本語で禁制ですが、禁制といっても皆様はあまり耳にしない言葉ですし、伝わりにくいです。私たちはコンチネンスを排泄のトータルケアと位置づけて取り組み続けています。

仕事は既存の事をそのまま続けることは簡単です。ケアの改善のためにどこで一步を踏み出すか、職員が理解したチームワークがとれるかは、その先に見える効果が必要だと思います。富士見台はいつでも施設見学をお待ちしております。

【メモ欄】